

認知症700万人時代へ パブリックトイレの環境整備も課題に

日本は世界に先駆けて超高齢社会を迎えており、2025年には65歳以上の約5人に1人、約700万人が認知症になると推測されています。また、65歳未満で「若年性認知症」を発症する方もいます。国も共生社会の実現に向けて、ハード面の環境整備を推進していますが、パブリックトイレの整備も課題の一つです。

※出典:「認知症高齢者の公共トイレの利用実態に関する調査研究」(日本工業大学) n=198 監修:野口祐子(日本工業大学建築学部建築学科生活環境デザインコース)

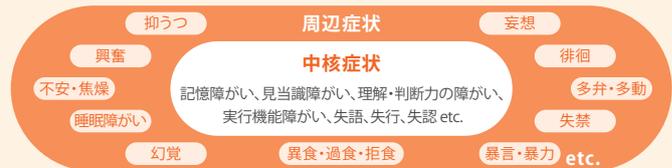
認知症とは

『認知症とは、一度正常に達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続性に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態を言い、それが意識障害のないときにみられる。』

出典:「認知症疾患診療ガイドライン2010」p.1(医学書院/2010年)

認知症というのは、「病名」ではなく、アルツハイマー病などの何らかの原因により、認知機能が低下し生活などに支障をきたした「状態」を指します。

認知症の主な症状



※「中核症状」は脳の機能低下により、直接的に表れる症状。「周辺症状」は、そもそもの性格や、環境、人間環境などが影響。原因となる環境や人間関係を変えることで症状が改善されることがあります。

国も“認知症バリアフリー”の推進へ

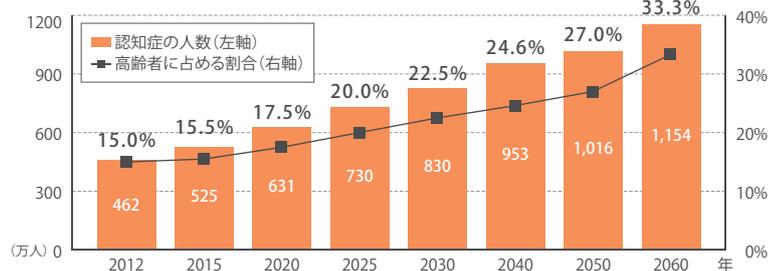
高齢化が急速に進み、認知症高齢者も今後増えていくことが予測される中、認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる“認知症バリアフリー”の共生社会を目指し、国の動きも活発化しています。

共生社会を目指して、国も認知症施策を推進

- 2012年「認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)」
- 2015年「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」
- 2019年「認知症施策推進大綱」「認知症基本法案」提出

【認知症高齢者数の推計】

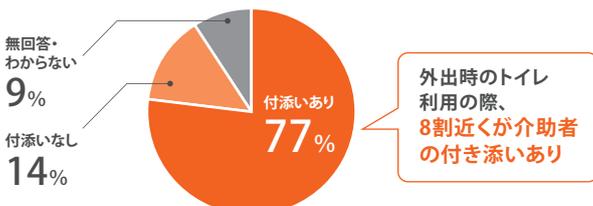
※出典:内閣府ホームページ「65歳以上の認知症患者の推定数と推定有病率」
※グラフは「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究(平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授)」(内閣府)を加工して作成



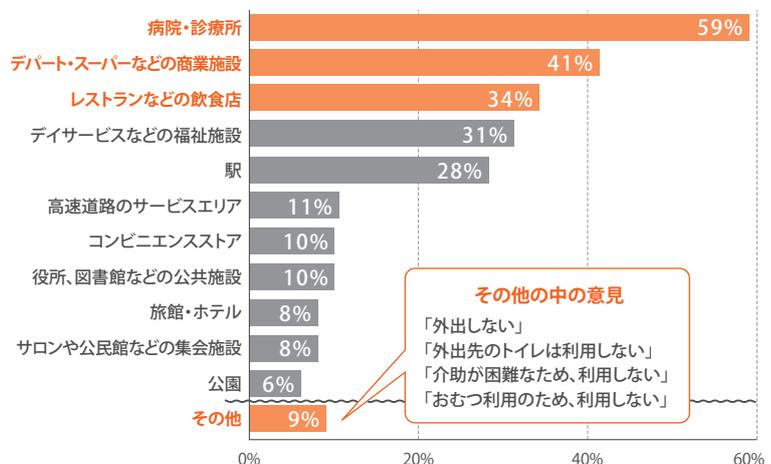
※各年齢の認知症有病率が上昇する場合の将来推計となります。

トイレ利用が困難で、外出を控えているケースも

外出時にトイレを利用する施設を聞いたところ、**病院・診療所**や**デパート・スーパーなどの商業施設**、**レストラン等の飲食店**など、地域のさまざまな施設でトイレを利用していることがわかりました。しかし、その他の中には、**外出先ではトイレを利用しない**や**介助が大変なので利用しない**等の声もあり、外出時のトイレ利用が困難で、外出を控えざるをえない実態もうかがえます。



【外出時にトイレを利用する施設】



その他の中の意見

「外出しない」
「外出先のトイレは利用しない」
「介助が困難なため、利用しない」
「おむつ利用のため、利用しない」

POINT!

誰もがいきいきと参加できる共生社会の実現のためには
認知症の人とその介助者への配慮も重要なテーマです

認知症の人が求める トイレまわりの設備や工夫とは?

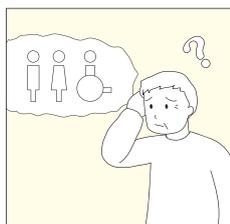
認知症の特性の一つとして、ものごとを素早く適切に理解し、判断することが難しくなる「理解・判断力の障がい」があります。それにより、パブリックトイレを利用する際に、案内・表示サインを認識しづらかったり、水を流すボタンの判別が難しいといったケースもあるようです。

※出典:「認知症高齢者の公共トイレの利用実態に関する調査研究」(日本工業大学)n=198 監修:野口祐子(日本工業大学建築学部建築学科生活環境デザインコース)

外出時にトイレの場所が見つからない…

認知症の人に外出時の**トイレ利用で困ること**について聞いたところ、**4割以上が「トイレの場所を見つけること」と回答**。トイレが奥まった所にあることや、誘導のためのピクトサインがわかりづらい、見えづらいことがあるようです。配偶者が介助する場合、高齢なことも多く、付き添う人も苦労されています。

【外出時のトイレ利用で困ること】



トイレの場所を見つけること

43%

ピクトグラムがわかりづらい。
日本語も併記してほしい。

(91歳女性の孫)

トイレの場所がすぐわかるように、
表示を工夫してほしい。

(79歳女性の夫/85歳男性の妻)

水を流すボタンがわからずに困ることも…

トイレ利用時の困りごととして「トイレの場所を見つけること」に次いで多かったのが「**水を流すボタンやレバーがわからない**」という声。トイレの高機能化によって操作ボタンが増加し、その配置もトイレごとに異なるケースも多いため、どのボタンを押せばいいのか戸惑ってしまうケースも多くあります。

【外出時のトイレ利用で困ること】



水を流すボタンやレバーがわからない

41%

鍵のかけ方や流し方が新しすぎてわからない。

(53歳男性の妻)

SOLUTION

わかりやすい案内・表示サイン

- ✓ ピクトグラムなどの視覚情報に文字情報を加えて、ひと目で確認できるようにする
- ✓ 背景とのコントラスト、大きさにも考慮して、視認性を高める
- ✓ 目線の位置が低く、視界が狭くなってきている高齢者でも、視認しやすい高さに設定する
- ✓ トイレまでの誘導サインの計画も重視



男性トイレ



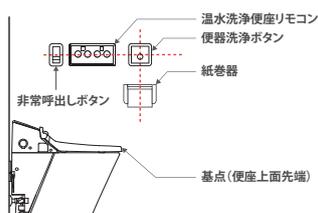
女性トイレ

わかりやすい操作ボタン

- ✓ 商品高さ寸法・デザインの統一により、空間デザインを損なわずにJIS配列が可能
- ✓ 認識しやすい文字と、大きい丸型形状のボタンで押しやすい
- ✓ ケース色とボタン色のコントラストがはっきりしているため、視認性がよい



JIS配列



2007年、経済産業省は、パブリックトイレの操作ボタンの配置を規格化(JIS S 0026)。共通のルール設定により、トイレ利用者の混乱を解消するこのアイデアは、2015年に国際規格となりました。